



## 海と山の新たなツーリズム～3年で築いた実績！「未来」に残すもの～

大分県農林水産部水産振興課資源管理班 主査 堀 敏 宏

周防灘南部に位置する大分県漁業協同組合宇佐支店（以下、「宇佐支店」という。）には、小型底びき網、建網、カゴ等の漁業により、かれい類、ハモ、えび類、ガザミ等を漁獲する漁業者が所属しています。ここ数年は、漁獲量の減少や魚価の低迷などで漁業経営は非常に厳しく、漁業者も激減しています。

そこで宇佐支店は、活気に満ちていた時代の再来と地域活性化を目指し、平成22年4月より「宇佐管内漁業3年再生計画」をスタートさせました。この計画には、干潟改善、資源保護、共同出荷、観光・体験漁業の推進等の各課題が盛り込まれています。ここでは、青年部が主体となって3年間取り組んできた「観光・体験漁業の推進」を紹介します。

### 体験漁業の基礎づくり（平成22年度）

青年部は、漁業に従事する傍ら、これまで朝市を実施し地域活性化に貢献してきました。これに加え、新しい世代に夢と希望をもって漁業を営んでもらうために、海・漁業・漁村に親しむ体験漁業を考えました。

取り組みに先立ち、宇佐市が主催する「体験型観光推進事業」のインストラクター研修により、漁船での実地研修を受け、安全管理等の重要性を学びました。

その後、農泊と農業体験を推進するNPO法人安心院町グリーンツーリズム研究会（以下、「安心院GT」という。）の提案によ

り、新たなツーリズムとして「農泊と連携した体験漁業」を実行することにしました。

### 海と山の連携スタート（平成23年度）

海と山が連携した本格的なツーリズムを進めるため、安心院GTと宇佐支店は、農泊と体験漁業の連携協定を結びました。最初に、広島から中学生が修学旅行で訪れ、農泊した生徒が漁業を体験しました。皆、最初は緊張していたものの、徐々に慣れ、初めて見る魚に興味津々でした（写真1）。港に戻って生きた魚を選別してもらったところ、その動きや感触に驚く生徒も多くいました。



写真1 体験漁業に参加した中学生達はエイに興味津々です。

### さらなる飛躍へ（平成24年度）

続いて、大阪市立の中学校2校が来訪することになり、アンケートも実施して、生徒がどのように感じたのか把握することにしました。まず、T中学校の生徒に、体験漁業につ



写真2 体験漁業では、積極的に魚の話をしたり、活けメの技術を教えることで子供達により楽しんでもらえるようになりました。

いてアンケートを実施しました。結果は、楽しんでもらったとの意見が多かった一方で、「網をひく間がヒマだった。」「説明がなかった。」などマイナスの意見もありました。青年部は、次の中学校の生徒が来るまでに「早く改善策を考えないといけない。」と感じ、「作業中に、積極的に楽しく魚の話をする。」「活けメ技術を伝授する。」等の対策を講じました。そしてN中学校の生徒の来訪時に、改善策を実行に移した結果、楽しんでいる生徒が増えたように感じられました(写真2)。

2校のアンケート結果の比較をしたところT中学校のときは、すべての項目で前向きな回答が60%で物足りなさを感じましたが、N中学校のときは、すべての項目で前向きな回答が増え、とくに「海や漁業に理解が深まったか?」との質問項目で90%が深まったと回答がありました(図1)。このような短期間での改善は、青年部の大きな自信になりました。

また、生徒が宿泊した農家からも、「新鮮な魚と野菜をおいしく食べることができた。」などの生徒の感想を聞くことができ、

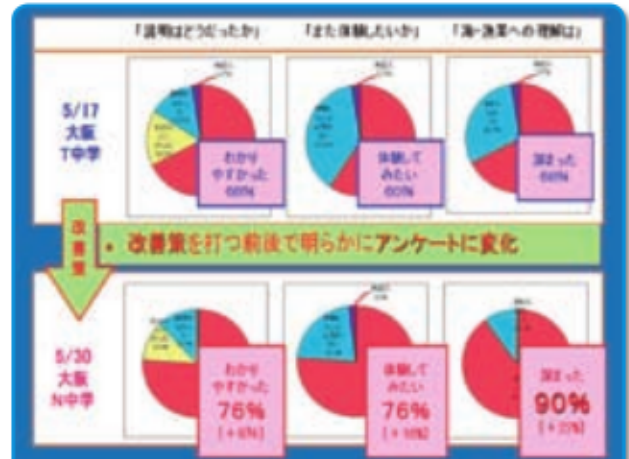


図1 2回のアンケート調査の結果から、改善策に大きな効果があったことが確認されました。

改めて海と山が一体化した取組になったと感じました(写真3)。

その後、西日本新聞に「ブルーツーリズム 修学旅行に人気」と掲載され、海と山のツーリズムの一体化の良いPRとなりました。また漁村民泊を始める家庭も出てきました。

今後、農泊と連携した体験漁業の推進及び漁村民泊の拡大が、漁業者の副収入として漁家経営の安定につながることを期待されています。漁村から山間部の農村に至る宇佐市全体の地域活性化とともに、漁業後継者が安心して暮らしていけるよう、今後も宇佐市独自のツーリズムを応援していきたいと考えています。



写真3 農泊と漁業体験の連携によって、美味しい農産物に加えて新鮮な魚料理も味わえて、参加者からも思わず笑顔がこぼれます。